

生来のアトピーと成人期リバウンドを経験した成人アトピーの経過 (20 代女性)

症例 ID：001-20-FM3 | 記録日：2017 年 10 月 28 日

1. 診断・治療前経過

出生時から黄疸があり、ずっとアトピー性皮膚炎を患っていました。小学生から思春期にかけて、アトピーを理由に友人関係や外出、恋愛などを諦めることが多い生活でした。

2015 年 11 月、26 歳の時に仕事の激務やストレスも重なり、ストロングステのステロイドを塗っても治りが悪くなったため、松本医院を受診されました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	ストロングステのステロイド外用薬を使用していました。
製品名	不明です。
強度	ストロングステ。
使用期間	不明です。
中止時期	2015 年 11 月の松本医院受診後に中止しました。
来院前／後	来院前に強いステロイド使用歴があります。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
2015 年 11 月	治療開始	初診直後から強いリバウンドが起こり、会社へ相談して退職しました。
2015 年 11 月～2016 年春	初期	顔を中心にリバウンドが起こり、脱ステロイド 1 か月目にムーンフェイスを発症しました。
2016 年春～夏	強い時期	デコルテが縦に多数切れ、腕が上がらない状態でした。
2016 年夏～秋	強い時期	太もも内側にえぐれた傷が多数でき、リンパ液が止まらず、背中と腕の落屑が大量に出ました。
2016 年秋～2017 年冬	経過中	背中から大量のリンパ液が出て、肘はかさぶたの塊のようになりました。
2017 年春～現在	経過後半	背中のリンパ液は週 1 回程度大量に出る日がありましたが、肘のかさぶたは柔らかい落屑程度に落ち着きました。

4. ピーク時期

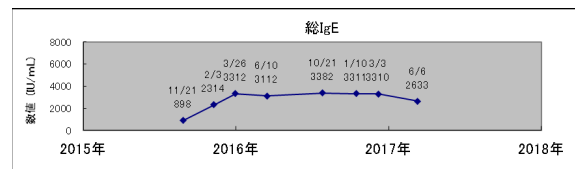
症状が最も強かった時期は、2016 年春から秋にかけて、デコルテの裂け、腕が上がらない状態、太もも内側のえぐれた傷、止まらないリンパ液、大量の落屑が重なった時期です。

5. 検査値

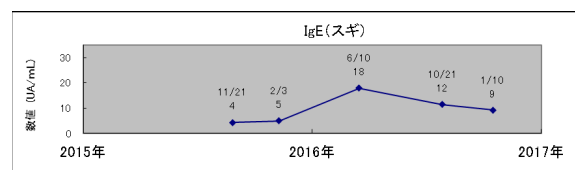
項目	内容
----	----

検査値グラフ	IgE、好酸球、ハウスダスト、ヤケヒョウダニ、TARC、LDH、リンパ球、HSV、VZV などの推移グラフがあります。
--------	---

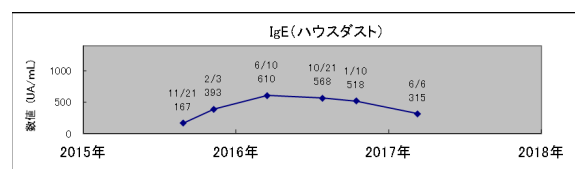
6. 写真・画像 ※治療前後の比較ではなく、経過中にみられた症状や検査値の記録として掲載しています。



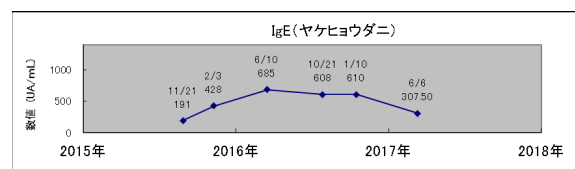
画像 1：IgE 推移グラフ。



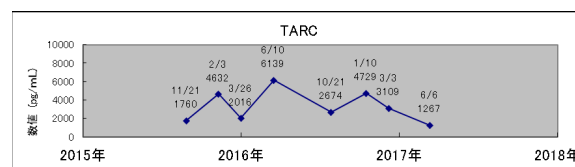
画像 2：好酸球推移グラフ。



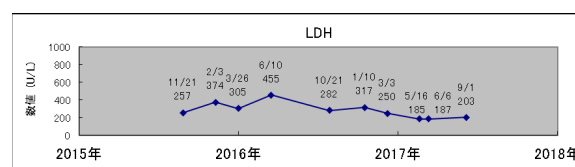
画像 3：ハウスダスト推移グラフ。



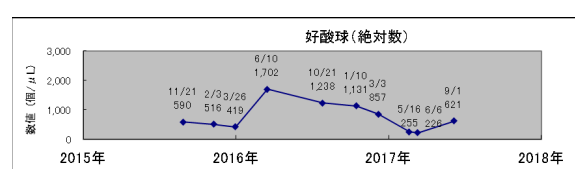
画像 4：ヤケヒョウダニ推移グラフ。



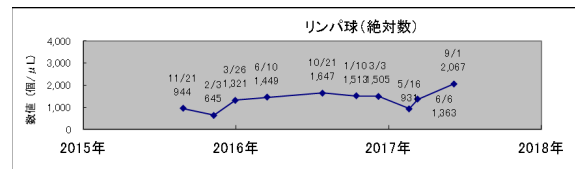
画像 5：TARC 推移グラフ。



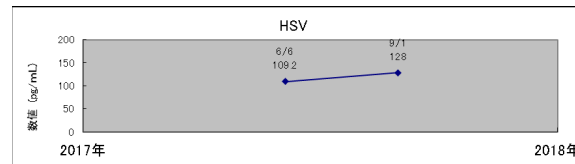
画像 6：LDH 推移グラフ。



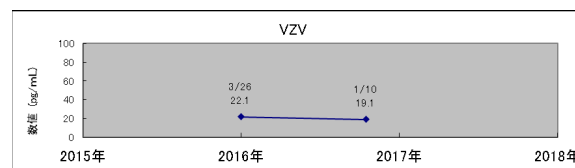
画像 7：好酸球推移グラフ。



画像 8：リンパ球推移グラフ。



画像 9：HSV 推移グラフ。



画像 10：VZV 推移グラフ。

7. 困りごと

- ・初診直後の強いリバウンドで退職することになりました。
- ・異臭や浸出液があり、日常生活上の負担が大きい時期がありました。
- ・背中や腕の落屑が大量に出るため、衣類や生活環境の管理が必要でした。

8. 経過のまとめ

2015 年 11 月の治療開始後に退職を伴う強いリバウンドを経験し、2016 年春～秋に全身症状が強く出ましたが、2017 年春以降は肘のかさぶたが柔らかい落屑程度に落ち着いてきました。リバウンドや症状の強い時期を経ながらも、通院経過の中で、皮膚状態が安定に向かう変化がみられた症例です。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。